

令和4年度 第3回富田林市文化財保存活用地域計画策定協議会 議事録(要約版)

日 時:令和5年3月9日(木)14:00~15:30

場 所:Topic(富田林きらめき創造館)3階

出席者:委員13名

事務局:7名

次第:◇アンケート結果の報告

◇ワークショップ開催についての報告

◇今後の予定

資料1:アンケート・ヒアリング調査結果とりまとめ

資料2:ワークショップ開催報告

◇開催確認

- ・委員16人中、13人が出席、過半数の出席を確認し、会議開催要件を満たしていることを確認

◇アンケート結果の報告

- ・事務局より資料1を用いてアンケート結果について説明

【A 委員】

アンケート結果を見た感想ですが、重要な意見がたくさんある印象を持ちました。これから計画をまとめていくうえで、市の文化財の保存・活用に関わる現状・課題を整理していくことになると思いますが、今回のアンケートから大まかに見えてきているだろうと思いました。現状・課題を踏まえて、方針や具体的な施策について計画に載せていくこととなりますが、施策についても地域の方が既にされていることも書かれていますので、それを踏まえて未来に必要な取組みは何なのかということこれから議論すると思います。

市民アンケートで、文化財への関心の高さが興味深いと思いました。一方で、関心はありますが、様々な文化財を十分に知っているのかということ、まだそうではないと思います。この計画自体が市民の方に文化財に関わりを持ってもらうようなものになると思います。

【B 委員】

町総代アンケートで、回収率が 53.5%と半数ほどですが、もう少し回答があってもいいように思います。50%あればアンケートとしてはいいと思いますが、この立場の人へのアンケートにしては少ないと思います。その要因は何か考えられるでしょうか。

【事務局】

要因は分かりませんが、町総代さんは個人の考えで答えられる方もいますが、町会の意見をまとめないといけないと思う人も比較的多いので、自分の一存では出せないということが期間的にもあったのかと思います。

【C 委員】

市民の関心が高いことは分かりましたが、情報がいきわたっていないことも強く感じました。町総代アンケートで、このアンケートの対象の中でも、自治会や町会でも地域によって温度差があるように感じます。このあたりはアンケートでつかむことは難しいと思いますが、市ではどう考えているのでしょうか。アンケートの意見の中にも、特に金剛地区について、もっと関心を持ってもらう必要があるというようなどころが見えてきます。金剛地区には歴史や文化に強い関心を持っている方が多く移り住まれていると思いますが、富田林の歴史にも関心を持とうとされていると思います。知的関心の高い方が多いと感じています。そういう方の力を引き出して、富田林の歴史文化と結びつけて、もう少し潜在的な力を引き出すようなことも必要だと思います。市内において、金剛地区は人口から言っても一番二番だと思います。金剛地区に住む人々の持っている色々な知的関心と富田林地域の歴史文化をどうやって結びつけていくかという努力が必要だと思います。このアンケートを見ていると、年齢や居住年数から言うと、多くは古くから住んでいる方々が回答しています。この回答を見ているといかにもそういう感じがします。そのあたりを発掘していく必要があると思います。少し違う視点で、関心を持ってもらうということが大事だと思います。

【D 委員】

アンケート結果を見ると、寺内町やだんじりといった意見が多く、元々文化財に詳しい人以外のところに、いかにアプローチしていくかが視点として必要なのかと思います。例えば、「団体アンケート・ヒアリング結果」の P7 を読むと、老夫婦に酒蔵を案内したら「こんなしっとりしたところがあった」と「大人が遊べる場所があった」と言われたことが書かれています。情報として繋がっていないということで、一般の市民や市民に限らず、まず寺内町であれば知ってもらう仕掛けづくりが、市全体として考える必要があると思います。

【事務局】

町総代アンケートや市民アンケートで、回答者の居住地のクロス集計をしていないので、直感的な回答になりますが、祭りやだんじりのある旧村の回答が多いかなと思います。ただ、細かい生データを見ていると、金剛地区にも古墳等があるのは知っているけど何か分からないという意見も見受けられます。そこに対する情報発信が足りないと感じています。文化財に関する情報を得るのは広報が一番になっているので、広報以外の何らかの方法で伝えていくことも大切なかと思っています。金剛地区へのアプローチの大切さについて、ワークショップの参加者は金剛地区の方が多かったです。ずっとニュータウンに住んでいて市外で働いていたが、リタイアして色んなことをしようと思った時に、いざ富田林のことをみると寺内町や古墳など色々あるんだなということで、ワークショップに参加されたという方が比較的多かったです。金剛地区へのアプローチは大切になってくるのかなと思います。

◇ワークショップ開催についての報告

・事務局より資料2を用いてワークショップ開催についての説明

【E 委員】

第1回と第2回のワークショップについてご報告します。

13名の参加で、金剛地区の方が多いということは興味深いと思います。活用の考え方についての説明では、あまり方向づけするような話はよくないと思い、活用を考えるうえでこんなことに注意してはどうかというソフトの話を、資源論を参考にして話をしました。文化財の価値は専門家が見つかるものであり、専門家の介入が必要になります。それを活用するところで、資源が地域資源になり、活用資源になっていくという3段階あるということを念頭に置いてはどうかという説明をしました。私は地域資源化と言っていますが、地域の方々にもまず文化財を知ってもらってから始め、知ってもらってから活用に繋げていくので、一足飛びに活用資源にはなりません。専門家が見つけた資源が地域資源になって、次に活用資源になるというステップを頭に入れてくださいという説明をしました。地域資源にデザインを加えることで活用資源になっていくという話もしました。例えば神社について、歴史的な部分にフューチャーすると当然歴史的な活用資源になっていきますが、縁結びにフューチャーすると歴史好きが集まってくるだけでなく若い女性も来たりします。デザイン次第で資源はいかようにも展開が変わります。ただ、嘘はいけないので、真正性は担保しないといけません。文化財をどうやって活用すればいいかというイメージを、参加者それぞれに考えていただき、発表してもらいました。

金剛地区の話とも重なりますが、本来、地域社会が存在しないと保存も継承もでき

ず、ましてや活用もできません。地域社会がどうかというところが一番根本的なところかと思えます。はじめのイメージは、富田林にいくつかの地域があり、その地域の中で地域の文化財を守れるようなシステムということで、計画書がベースになるといいかなという考え方でしたが、金剛地区のことをあまり想定していませんでした。富田林は地区の文化財を地区で守ろうということが成立するところですが、金剛地区は色んな好奇心を持っている人がいて、色んな地域にコミットしていくような可能性を秘めているのではないかと思います。富田林モデルのようなモデルが成立するような気がします。金剛地区にも文化財はあると思いますが、それ以外の地区に色んな文化財があり、その文化財の保存・活用に金剛地区の方々が関わられる可能性が、ワークショップをしながら感じることができました。変則的な保存・活用ができるのではないかと思います。「ワークショップ開催報告」の P3 から色んな意見が出たことがまとめられています。アイデアを出しやすいように、コンサルタントにシートを考えてもらい、これを埋めていくと活用アイデアができるというシートを事前に作っておいて考えてもらいました。色んな意見が出てきて、私も感心しました。

アンケートでは、「アンケート・ヒアリング調査結果とりまとめ資料」P2 の市民アンケートのところで、「回答者が文化財の保存・活用のためにできることは何ですか」という質問に対して、20.3%が「できることはない」と回答しています。「できることはない」と答えた人がどの地区の人かを分析し、参加者の居住地域などと何か関わりがあるのかなと思います。つまり、情報発信を何か変えていかないといけないと思います。文化財を知ってもらうための情報発信をどういうコンテンツにするのがいいかということ、アイデアをみながら、何かできるんじゃないかなと思います。

アイデアを見ているとアクティブなことを考えている方が多いです。今回のワークショップのような形でもいいですが、計画を作りながら体験イベントのようなことを展開していくのもいいのかなと思います。地域の方々も保存・活用を考えていくということで、それを地域の「誰が」していくのかという準備を今からしていく必要があるのではないのでしょうか。色んな体験プログラムを並行して展開しながら、地域でコアになる人を見つけていかないと、計画ができただけでは、私はしんどいかなと思います。地域で中心になってくださる方の発掘も、計画を作りながらする必要があるのかなと思います。そういう人材を見つけるという意味でも今回のワークショップはよかったと思います。こういうワークショップを、このままの形でなくていいと思いますが、継続していく必要があるのかなと思います。こういう作業をしないと、ここからしんどいと思います。人材を見つける意味でもワークショップを継続的にしていくといいと思います。

【F 委員】

たくさんの意見があっっておもしろいと思いました。アイデアを出してもらった後に、個々へのフィードバックはありますか。まとめというところで一旦終わっていますか。ある

いは、こんな意見を聞いて、実際にこういう活動をしたというフィードバックはありますか。

【事務局】

アイデア出しで終わっています。最後にコーディネーターの先生にまとめをしてもらいましたが、個々の意見に対して、何かを返しているということは今のところありません。

【F 委員】

実現できそうなアイデアがある気がします。そういうアイデアについて、次年度以降、行政側からアクションしていこうという事業計画はありますか。

【事務局】

今のところありません。

【F 委員】

可能であれば、これをやれば次また次と動いていくと、おそらく参加者も増えてきますし、自分達の意見が結果としてこうなっていくんだと浸透していくと思います。お金がかからないようなことからアクションをおこせば、みなさん反応はあると思うので、ご検討いただければと思います。

【G 委員】

アンケートで、市で欠けているものとして、博物館がないことが一番大きな問題だと思います。市役所の中でミニ展示みたいなものはありますが、全体を通覧するような展示がないことが致命的だと思います。市内には大阪大谷大学に博物館がありますし、富田林市と大阪大谷大学は連携協定を結んでいるはずですが、そういう連携協定を持っているところで、基本的な展示や文化財に関する関心を高め、関心を持ってもらえるような分野の展示をすることを考えてはどうでしょうか。お金は比較的にかからないと思います。

【C 委員】

大阪大谷大学の博物館を当面借りるのもいいですが、市独自、市自前のものとしてぜひ作られるべきものだと思います。文化財保護条例ができて市指定もされていますが、指定文化財を公開する場がありません。また、収集した資料を室温が管理されるところで保存できる場所がどうしても必要だと思います。膨大な古文書もありますが、古文書もどうなるか分からないというのでは正直不安です。指定された美具久留御魂神社の絵馬にしても、重要な文化財だと思います。人が見ていいと思われるものだと思いますが、このまま放置すると朽ちていきます。長期計画を練らないといけません、

しっかりと保存できる場所、市民に公開する施設を本格的に取り組んでもらいたいです。反対されるような市民はおられないと思います。市民に寄付をお願いしてもいいと思います。ぜひお願いしたいです。

【事務局】

文化財行政は、他市と比べて遅れていると感じています。現在は条例を作って指定文化財とできていますが、最初のステップとして保存活用地域計画を策定する、次のステップとしては市民の方に文化財に触れるきっかけを作るということが大事だと思っています。そのためにも、資料館、博物館、展示館は重要な案件になると思います。市民の方へのアンケートやワークショップの中で一番感じたことは、親しみを持てる文化財との接点がなかったのではないかということです。そういう接点を作っていくためにも、そのような計画になるように進めていきたいと考えています。

【G 委員】

文化財保存に対する情操教育として、早いのは出前授業などを活用して、まず子どもたちに教えていくことが大事だと思っています。高齢者になってから何かやろうと思っても難しい話です。金剛団地の方がリタイアしてから実行されるのはいいですが、そういう人はまれだと思います。その限られた人を対象にするよりは、小学校や中学校を対象にして、出前授業などで、文化財は大事だよということを子ども達に教えていくことが大切だと思っています。大人になってからだだと色んなことがあるので、無理があると思います。この文化財保存活用地域計画のゴールはどこにありますか。

【事務局】

教育は非常に大事であり、子どもの頃から興味を持ってもらうことは大切だと思います。計画の到達点について、どういう形で内容が固まってくるかは分かりませんが、一定の内容が示されて、目指すべき方向性は定まると感じています。

【H 委員】

計画策定の手順として、全国でかなりの数の計画が進んでいますが、まずアンケートやワークショップでどういうニーズや課題があるかを整理したうえで、市の将来像を具体化し、その将来像を目指すための方針をいくつか柱を立てて、その下に課題と対策をぶら下げていくということで、まず大きなところから計画を作っていくのが適切な形だと、文化庁から指導を受けています。今後は、この成果を持って将来像を落とし込んでいく作業の段階にあると思います。

【A 委員】

金剛地区の住民の方が、今後市内の文化財活用の担い手になりうる可能性があるということでしたが、こういう文化財活用に関わる人材を育成していくことを計画に盛り込んだ方がいいと思います。例えば、文化財活用マイスター制度みたいなものを作り、人材育成をしていくのがいいと思います。子ども達への教育も非常に重要なことだと思います。理想を言うと、博物館を作って、保存や展示をしながら、普及啓発もできていくといいですが、学芸員のマンパワーも限られるでしょうから、市民の方で普及啓発もできるような人材育成をすると、活用と子ども達への普及も実現できていくのかなと思います。マイスター制度のような検討もいいかなと思います。

【F 委員】

地域連携で、大阪大谷大学博物館で市の文化財を展示してはどうかということですが、現在相談をしているところです。来年度は予定がつかまっているので、次の段階でできればと思っています。

【H 委員】

市民の方からあげられた地域のお宝がまとめられていますが、この結果が市の想定していた範囲の中なのか、あるいは市として意外な答えがあったのか。また、そういうものがあつた時に、既存の文化財の体系・分類におさまるものばかりなのか、あるいは見直した方がいいということになるのかという点を教えてもらいたいです。

【事務局】

計画策定にあたって、歴史的文化資源という形で文化財を幅広く捉えていこうという想定はしていたので、広く出てくる予想はしていましたが、実際地域のお宝を見てみると、鳥の鳴き声など自然のものがあり、そういう考えもあるのかという新たな思いを持ちました。

【G 委員】

計画作成に伴う作業として、文化財のリストを作るという作業があり、その際にどこまで掲載するか、どんな分類体系で載せていくか、ということも先に方針を決めてから作業した方がよいと思うので、その点はよくご検討いただければと思います。

【I 委員】

オブザーバーとして2回のワークショップに参加しました。皆さんの意見は多様でしたが、それぞれ深掘りした具体的な計画も含めたような発表がありました。私も驚きましたが、それぞれの方がナビゲートできるような方ばかりでした。それぞれに意見を持っ

ており、さらに知識を学んで皆さんに伝えたいという方が、富田林にすることが嬉しく思いました。これをどういうふうに描いていくかということが今後の重要なことになると思いますが、重要な意見を出してもらっているので積極的に活用してほしいです。

【J 委員】

地域のお宝アンケートで、鳥の鳴き声という回答があったとか、394 件の回答があったということですが、ここで大事なのは、ニュースレターに1位～5位までのランキングでメジャーなものを載せていますが、知らなかったマイナーなものも伝えてほしいと思います。アンケートに答えてくれた人へのフィードバックということも含めて、例えば、鳥の鳴き声であれば、富田林ではこんな鳥の鳴き声があるんだよなど、「地域のお宝アンケートから」というコラムのような形で、メジャーなものもマイナーなものも毎月発表していくと、それを楽しみにして、そこからこんなものもあるんだと伝わるのかなと思います。お金もかからないと思うので、広報という形で一つ取り組めるようになると思います。

◇今後の予定についての報告

・事務局より今後の予定について説明

以上